

再編整備・募集停止は子どもたちの将来を奪っている

「希望するすべての子どもたちが入学できる募集定員を」

さみだれ陳情 9/19

民主教育を守る県民会議は、8月23日に県教育長あて「希望するすべての子どもたちに豊かな高校教育を保障するための陳情書」を提出し、9月19日、高校教育課、義務教育課に対し、さみだれ陳情を行った。

その中で、現在すすめられている高校再編整備計画に対し、県教委のトップダウンによる計画を見直し、募集定員の削減を行わないように各地区から具体的な事例を示して強く要請した。

なお、県教委は、10月4日、07年度の公立高校募集定員を発表した。中学卒業者の減により、全体で7学級・280名の募集を削減した。

また、県教委は、公立高校の「整理統合基準」の基準を「5月1日現在の在籍者数が全学年の定員の3分の2以下の状態が2年続いた場合」としているが、それに該当している大島北高校（奄美市笠利町）の適用を見送る決定をした。同校は、1学年2学級（定員240名）の学校で、05年の在籍は148人、06年の在籍は151人で2年連続して定員の3分の2（160名）を下回っており、整理統合基準に該当していた。

同総会やPTAでは学校の存続を求める署名活動を展開していたが、県教委は、「生徒増や合併を考慮」したとしている。これまで南大隅高校佐多分校（02年3月末）笠沙高校（06年3月末）が同基準により閉校している。

* 「整理統合基準」：県教委が1996年に策定。「5月1日現在の在籍数が全学年の定員の3分の2以下の状態が2年続いた場合、翌年度の募集を停止し、2年後に閉校する」とした。

* 「かごしま活力ある高校づくり計画—基本計画」：県教委が03年10月に決定。2010年までに82校ある公立高校を65校程度に減らす。その適正規模を「4～8学級」とするもの。

県教委・公立高校募集定員発表 7学級 280名の減 10/4

【08年度募集定員 学区別増減一覧表】

学区	学校名	学級数
鹿児島	甲陵高校	普2→1 40名減
揖宿	指宿商業	商6→5 40名減
川辺	該当なし	
日置	該当なし	
薩摩	入来商業&樋脇高校 = 川薩清修館	ビジネス会計 2 総合学科 2 40名減
出水	該当なし	
始良・伊佐	該当なし	
始良東	福山高校	普2→1 40名減
曽於	岩川高校	工業化学募集停止 40名減
肝属	該当なし	
熊毛	該当なし	
奄美	喜界高校 沖永良部高校	普2→1 40名減 商2→1 40名減

陳情項目

- 1 「かごしま活力ある高校づくり計画—基本計画」の抜本的な見直しを図ること。安易な高校統廃合・募集停止を行わないこと。
- 2 高校に希望するすべての生徒が入学できる募集定員の策定を。機械的な定員削減を行わないこと。
- 3 定員に満たない学校については希望者を全員受け入れることを高等学校長へ指導すること。
- 4 公立高校に「障害」児学級を設置すること。中種子養護学校に高等部の設置を。
- 5 授業料の減免制度及び、奨学金の拡充を図ること。

各地区の要請項目

鹿児島：玉龍中高一貫高の開校で、120名の減になった。市内の子どもたちの進路を圧迫している。

揖宿：地区内4校の募集定員の維持をお願いしたい。

川辺・枕崎：定員内不合格になった生徒についてチャンスは与えられないのだろうか？2次選抜も不合格になった生徒がいる。私立を合格していたが、経済的な理由で私立にもいけない。高校は学力だけではないはずだ。人間形成の場であることから、定員内不合格を出さないように強く要望する。

日置：2次選抜を受けるためには、私立はけらないといけない。高校卒業資格は最低の就職条件である。JRから離れているところは、バス路線がないと通学に困る。再編の全体計画を示して、子どもたちが安心する環境をつくってもらいたい。

川薩：薩摩中央高校は、生徒・保護者・地域の期待に応えられたものではない実態が明らかになってきている。2年目にして定員割れをおこした。入来と樋脇の問題も、地元の要望とは違う入来に設置されることになったが、樋脇に設置されることを希望して樋脇高校を希望した子もいる。「入学してよかった」という学校づくりのために行政として責任を果たしてほしい。

出水：1次で10数名、2次で数名の不合格が出ている。子どもたちの進路保障の観点からも定員内不合格は出さないでほしい。鶴翔高校は、3校の受け皿になっていないということが、募集定員からも明らかになった。これは何だったのか？原因をしっかりと分析してほしい。

始良・伊佐：栗野・牧園再編問題は、子ども・保護者にとって大きな不安となっている。長期的なビジョンにたつこと、地元協議会との話し合いなどをきちんとしてほしい。これまで栗野工業には県外からの希望者もいた（今年はいない）。今回の混乱をどう收拾していくのか責任ある対応を望む。

曾於：財部高校は、統廃合されるのではないかという危機感をもっている（県外からの入学者が半分）。3校の存続を望む。志布志高校の英語科は、普通科が難しいという子どもの調整科になっている。当初設置の目的を再度検討することが必要だ。

肝属：2次募集の本来の目的は何なのか、希望した子どもにはチャンスがあるということが大事だ。

熊本：中種子養護の高等部の設置ができないということは残念だ。高等部がないために親元を離れて島外に出ている。南種子島地区の統廃合について地元は反対の姿勢だ。高校がなくなるというのは地域が疲弊する。数の論理で進めれば再編したあとに問題が噴出する。新設種子島高校も学力重視の学校の方針に子どもたちからの不満も出ている。

奄美：古仁屋高校については、定員割れではあるが、与路・請島もあり、他の高校とは違った条件がある。また、定員内不合格の問題については、奄美に私立がないことから高校教育の意義は大きい。

高教組：定員内不合格については、数が減っていない。面接が受け入れるという姿勢でなく、振り落とす機能になっているのではないか。「私立高校に合格し入学手続きをしたものは、2次選抜を受けられない」という項目の削除を強く要求する。入試制度も多様化しているなかで、開陽高校のように多様な子どもを受け入れる高校であってほしい。

事務局：再編整備について「65校というのは目処である」との発言があったが、各地域で混乱している。目処であれば、きちんと今後の進め方も含めて説明責任を果たすべきだ。